

会 議 録

会 議 名	辰野町商工業振興審議会		
開催日時	令和 5 年 9 月 22 日（金） 10 時 00 分から		
場 所	辰野町役場 1 階 第 2 会議室		
出席者 (敬称略)	辰野町議会議員 総務産業常任委員会 委員長 古村 幹夫 辰野町商工会 会長 檀原 隆宣 辰野町商工会 副会長 秋山 良雄 辰野町商工会 商業部会 部会長 赤羽 孝志 辰野町商工会 女性部 部長 山寺 正子 辰野町商工会 女性部 副部長 小澤 幸子 八十二銀行 辰野支店 支店長 竹内 正明 アルプス中央信用金庫 辰野支店 支店長 兼 宮木支店 支店長 尾名高 裕志	出席人数	
		審議委員	8 名
欠 席 者 (敬称略)	辰野町 町長 武居 保男 産業振興課 事業者支援担当 課長 菅原 隆之 産業振興課 商工振興係 係長 野澤 隆生 産業振興課 企業相談員 丸山 六男	辰野町	4 名
		辰野町 産業振興課 工業部会 部会長 尾名高 正徳	審議委員
会議次第	1.開会 2.町長あいさつ 3.会長の互選 4.会長あいさつ 5.協議事項 (1) 令和 4 年度商工業振興事業報告と令和 5 年度商工業振興事業経過について (2) 辰野町商工業誘致及び振興補助金について (3) その他 6.閉会	辰野町 産業振興課 企業支援係 係長 西原 功	2 名
		辰野町 産業振興課 企業相談員 金澤 重雄	

配布資料	別紙のとおり
会議結果	<p>3.会長の互選</p> <p>辰野町商工業振興審議会条例 第4条により 辰野町商工会 会長 檀原隆宣氏を会長に選出</p> <p>5.協議事項</p> <p>(1)令和4年度商工業振興事業報告と令和5年度商工業振興事業経過について 説明 ○質疑応答 なし</p> <p>(2)辰野町商工業誘致及び振興補助金について 説明 ○質疑応答 なし</p> <p>(3)その他（意見交換）</p> <p>古村委員</p> <p>新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、収束に向けて動いているという安心感がある一方で、返済も含めてこれからが厳しいといった声がある。議会としてもアンテナを高くして皆さんの声を聞き、町の方に届けてゆきたい。</p> <p>山寺委員</p> <p>飲食料理組合はコロナ禍で大変な中、国、県、町からの補助金で助かったが、利益がでると補助金にも税金がかかることに少し不満を感じる。融資の据え置き期間が終わり返済も始まり、今まで以上の売り上げがないと返済が滞ってしまう。</p> <p>物価が上がった分を価格に転嫁すればという声もあるが、難しい。これから忙しくなっても人を雇うことはできないし、蓄えることもできないので、楽しみながら商店街を盛り上げていければと思う。</p> <p>飲食料理組合からは一軒でも退会しないようにしたい。これからのことについて不安もあるが、他に頼ることもできないので、自分のことは自分守っていかなくてはいけないと思っている。</p> <p>小澤委員</p> <p>山寺委員と同意見である。</p> <p>返済等の負担が大きい。補助金があっても街は衰退気味であるので、これから繁栄するよう応援をしてほしい。</p> <p>尾名高委員</p> <p>あっせん資金について、辰野町の方は三年間の据え置きを選択した方が少なく、返済が始まっている。ゼロゼロ融資については利子補給が終わり、借り</p>

入れをした人は、資金を滞留させるのか返済すのかといったことを検討している。

コロナ禍については皆が苦勞した。われわれもできる限りのことをしてきたし、今後もそうしたい。

コロナ前には戻っていない。引き続き移住定住の他、人材確保なども課題となっているので、それらのことを考慮しながら町全体が活性化する取組に協力してゆきたい。

コロナ禍に加えて、事業者は2024年問題とゼロカーボンへの対応については経費がかかることを心配している。辰野町でもそれらに対する施策を示して欲しい。

竹内委員

コロナ禍の影響前から厳しかったが、コロナ禍を受けてさらに厳しくなった。その影響は二極化している。

金融支援については、返済が始まっていて、条件変更の相談に対応しているが、金融支援だけでは限界があると感じている。本業や販売先、原材料の高騰への支援につながるような提案が必要。

一番の課題である後継者については、身内、社内に適任者がいないといった相談に対してグループを挙げてマッチングなどで注力している。後継者問題については、一筋縄ではいかないところに歯がゆさを感じている。

金融支援は当然として、町や商工会と協力しながら本業支援をしなければいけないと感じている。町の目指す方向と事業者にメリットがあるような補助金なり施策を検討してもらえればと思っている。

空き家対策について辰野町は注目されている。空き家がなくなれば町の財政にはよいこと。町独自の補助金、支援金がこれまでもあるので、それらを活用しながら移住者が増えて生産人口の増加に結び付くような支援ができればと思っている。

赤羽委員

ゼロゼロ融資の返済があり厳しくなってくる。物価が上がっているので仕入れ値が高くなり、同じ売上だと今まで通りの経営ができない。調査をしたわけではないが、今年が一番厳しいといった感じがある。支援のためのイベントを企画しても全部の業種に対応するのは難しいので、自助努力も必要。辰野町は三方向どこへでも出かけられるという立地条件から外で買い物をしてしまうことがあり、厳しい。赤羽さんなどの若い人たちに商工会の理事として入ってもらい話をしてみると、横のつながりが十分ではないといった課題が見えてきた。出ていかれるのは仕方がないが、仲間になればお互いが買物をしあうという循環を作ることができる。若い力に少しでも長く辰野町で

商売をしてもらえることを念頭に置きながら、若い人たちにとってメリットのあるイベントなどの活動をしていきたい。昨年は降ってわいたようにまちあるきの補助金が得られ、大々的にまちあるきが開催できた。これから何かあればフットワーク軽く対応したい。

秋山委員

コロナ禍にあっては、町や県の支援があった。ゼロゼロ融資の返済が始まる。物価の値上がり等あるが、電気代の高騰では、何百万円という金額が負担増となってくる。コロナ前に戻ることを前提に色々なことを進めてきたが、まだ戻っておらず、さらに悪化している。大きな要因は中国の問題で、製造業はよくない。去年までは半導体関係が良かったが、現在は止まってほとんど動いていない。来年からはよくなるといわれているが、見通しがつかなく皆さんは耐えている状況。そういう中で、価格の転嫁をしなければいけないが難しい。原材料についての価格転嫁はできるが、人件費や加工費の価格転嫁は難しい。製造業に係る人たちが団結して情報交換しながら協力し合ってものがいえる環境を作っていければよいと考えている。価格転嫁できないことに加え人手不足の問題があり、先が見えない不透明な状況にあり、皆さんが耐えている状況にある。

壇原委員

2024年問題といわれる残業時間の問題、ゼロカーボンなど厳しい状況にあるが、ピンチはチャンスでもあるので新しい視点をもちたい。コロナ感染症については、インフルエンザと同じで、増えたり減ったりの状況にある。感染症はこれからはなくなることはないと考えて対処しなければならない。

人手不足、事業承継といった課題がある。事業承継するには、親族、従業員、別の会社とある。従業員については株や連帯保証人という大きなリスクがあり難しい。親族にあってはサラリーマンの方が良いということで事業承継はうまくゆかない。これからは、会社の業績が良いうちにM&Aを進めるのがよい。売り手が買い手を選べる売り手市場でのM&Aが望ましい。辰野町でもいくつかの建設が倒産したときに除雪で苦労した。会社を存続させ、除雪や災害復旧といった社会貢献を果たすことは企業人として大切。それらを踏まえて、商工会でも事業継承を考えてゆきたい。

商工会は、建設、商業、工業の三部会になっている。小売り、卸業、サービス、観光事業が商工業に集まっていて、支援策についての意見がまとまりにくい状況にある。異業種同士でも幅広く意見交換できる商工会を目指したい。商工会は企業をバックアップできるように変えてゆきたい。商工会は新しい人材が揃った。お役に立てるように資格取得も進めているので、相談してほしい。

	6.閉会
	11 : 00 終了